

コロナ禍の親子近況・こんな本読みました

東京都日野市 中原緑 壮祐 (5歳) 紗雪 (5カ月)

我が家には幼稚園年長 (5歳) の息子と娘 (0歳 5カ月) がいます。新型コロナウイルスによる外出自粛生活が続いているため、家族で日々の過ごし方を話し合っています。息子も今の気持ちや考えをきちんと言葉で伝えてくれます。特に図書館へ行けず、本が借りられないことには不満があるようです。

4月は近所の散歩と自宅に籠る日々でした。息子は黙々と工作をしていました。段ボールを使って、ノートパソコン(お父さんが在宅勤務で使用しているのを真似したもの)や、お店のレジを作り、毎朝お父さんがお客さんとなり、自分でコーヒーを淹れることが日課になるなど、ごっこ遊びを楽しんでいます。その結果、息子の作品で部屋が埋め尽くされています。他にも一緒に料理をしたりボードゲームをしたりと、外出自粛でもそれなりに楽しく過ごしていました。

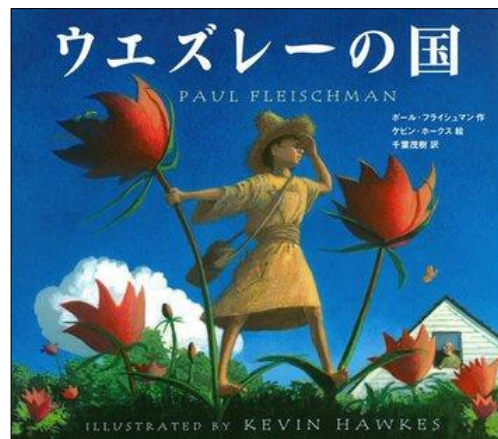
また、お父さんと平日の朝も夜も一緒に過ごせるのでとても嬉しそうです。

GWにはオンラインで読み聞かせフェスに参加したり、東京子ども図書館の YouTube を見たり、自宅で楽しめる新たな体験をしました。



息子が最近気に入っている絵本は『ウエズレーの国』です。個性的な少年ウエズレーが夏休みの自由研究で自分だけの作物を育て自分だけの「文明」を創る壮大なお話です。

「ウエズレーすごいねー！ウエズレーに会ってみたいなあ。一緒に秘密基地を作りたい！」と、読むたびにワクワクする気持ちが溢れてくるようです。



『ウエズレーの国』

ポール・フライシュマン・作
ケビン・ホークス・絵 千葉茂樹・訳
(あすなろ書房)

息子は妹に自分が好きだった絵本を読んであげたり、わらべうたを歌ったりしてくれます。私は子どもたちと絵本やわらべうたでゆったりとした時間を過ごしていると、今までと変わらない日常があるように感じて気持ちが落ちきます。以前のように、文庫やお話会で絵本やわらべうたを集まって楽しめる日を心待ちにしています。

2020年 5月28日